

4. 調査結果

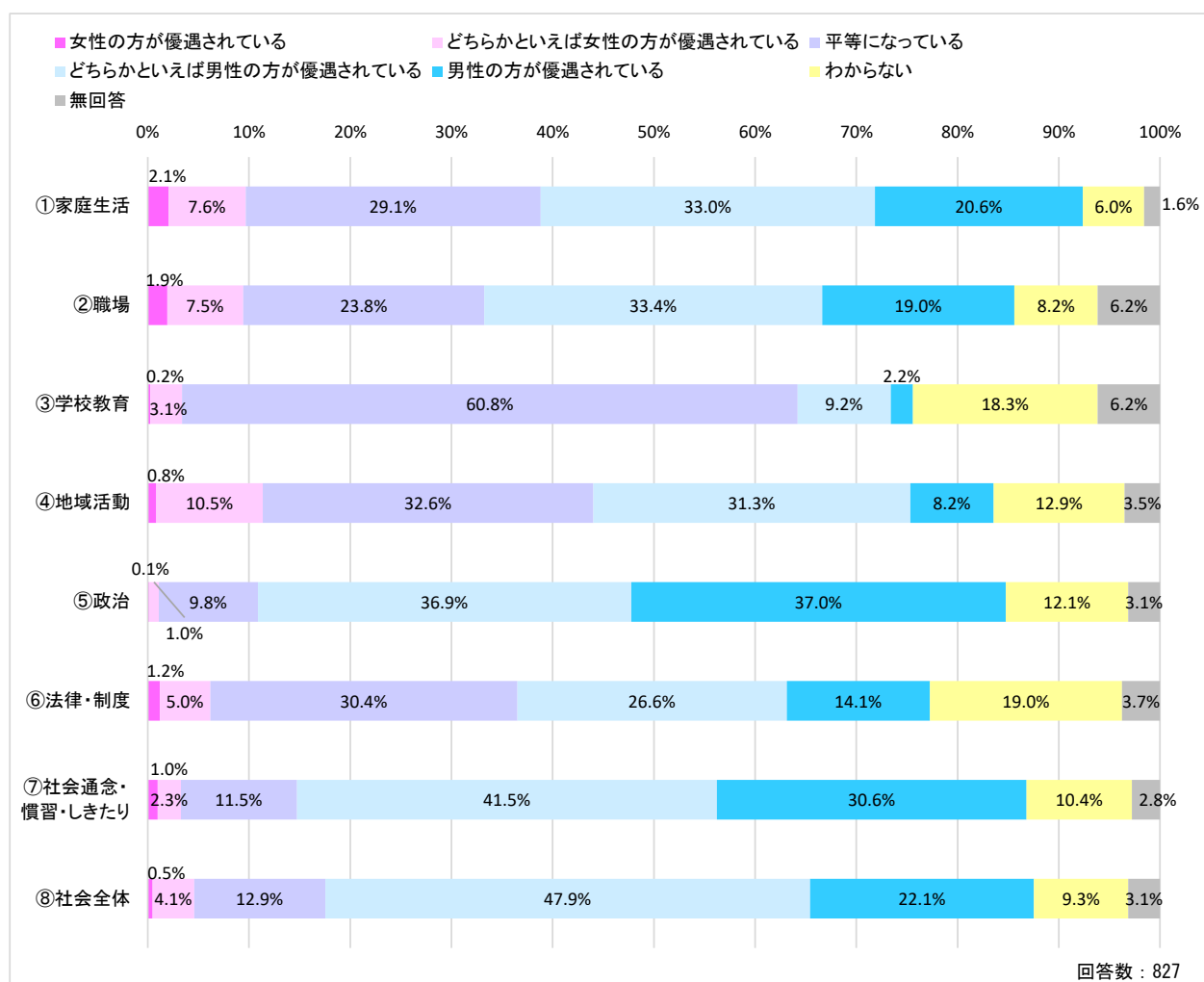
I. 男女の役割や地位に関する意識について

問1 あなたは、次の各分野で、男性と女性は平等になっていると思いますか。

各分野において、男女が平等であるかどうか尋ねている。多くの分野で、「男性優遇※」の割合が「女性優遇※」より高くなっている。「男性優遇」の割合が最も高いのは、「⑤政治」で73.9%、次いで「⑦社会通念・慣習・しきたり」が72.1%、「⑧社会全体」で70.0%となっている。全く異なる傾向を示すのは「③学校教育」で、「平等になっている」の割合が60.8%と過半数を超えている。また、すべての分野で、「女性が優遇されている」という割合はきわめて少ない。

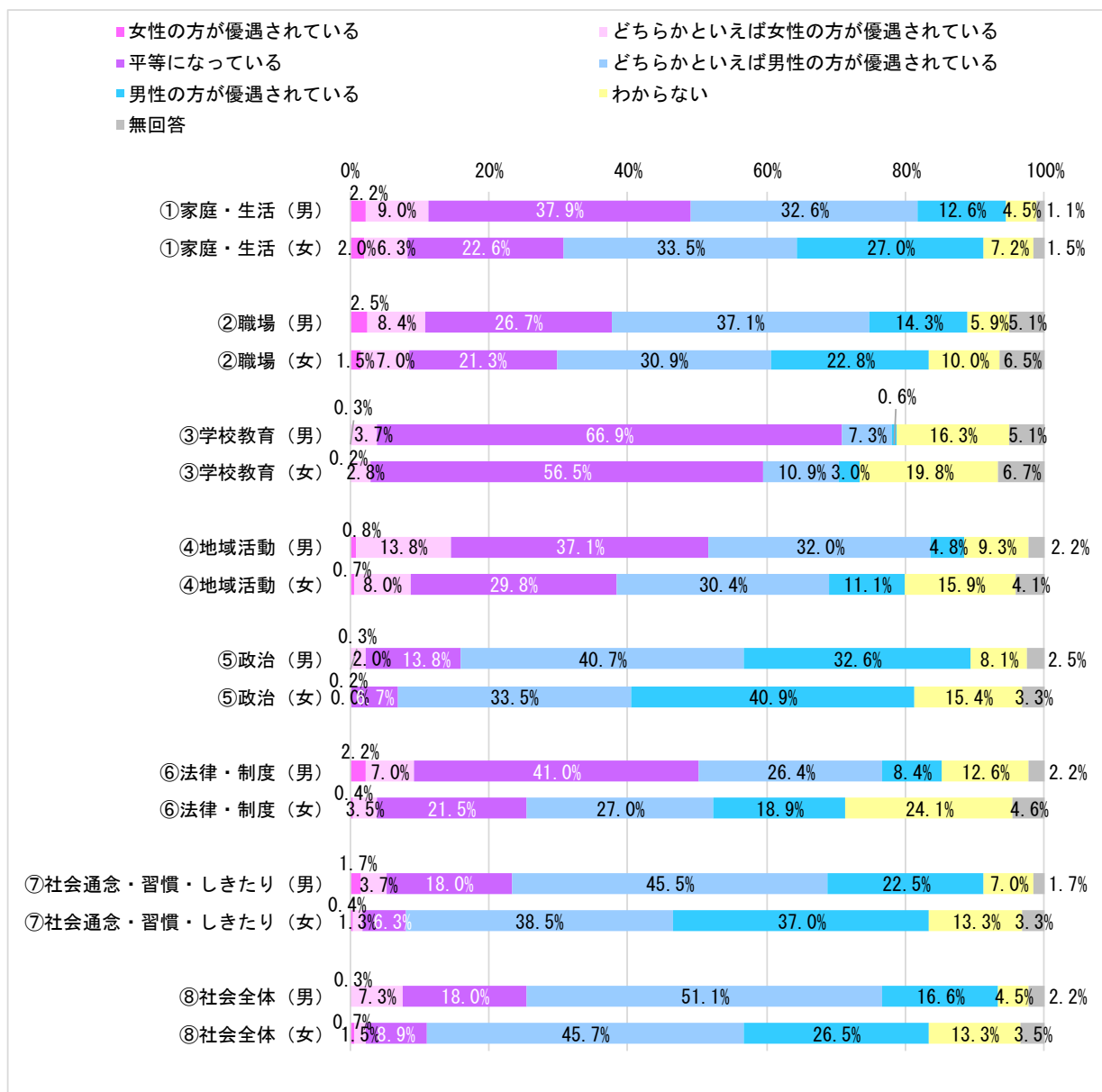
※「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の合計

※「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」の合計



■性別の傾向

「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女ともに「③学校教育」で、男性では66.9%、女性では56.5%を占めている。次いで、男性は「⑥法律・制度」で41.0%、女性は「④地域活動」で29.8%となっている。



■全体で前回（平成 24 年度）との傾向

前回の調査で「男性優遇※」の割合が最も高いのは、「⑦社会通念」で 75.8%となっており、次いで、「⑤政治」で 72.0%となっている。

今回の調査で「男性優遇」が最も高いのは、「⑤政治」で 73.9%となっており、次いで、「⑦社会通念」で 72.1%と、前回と異なる結果となった、

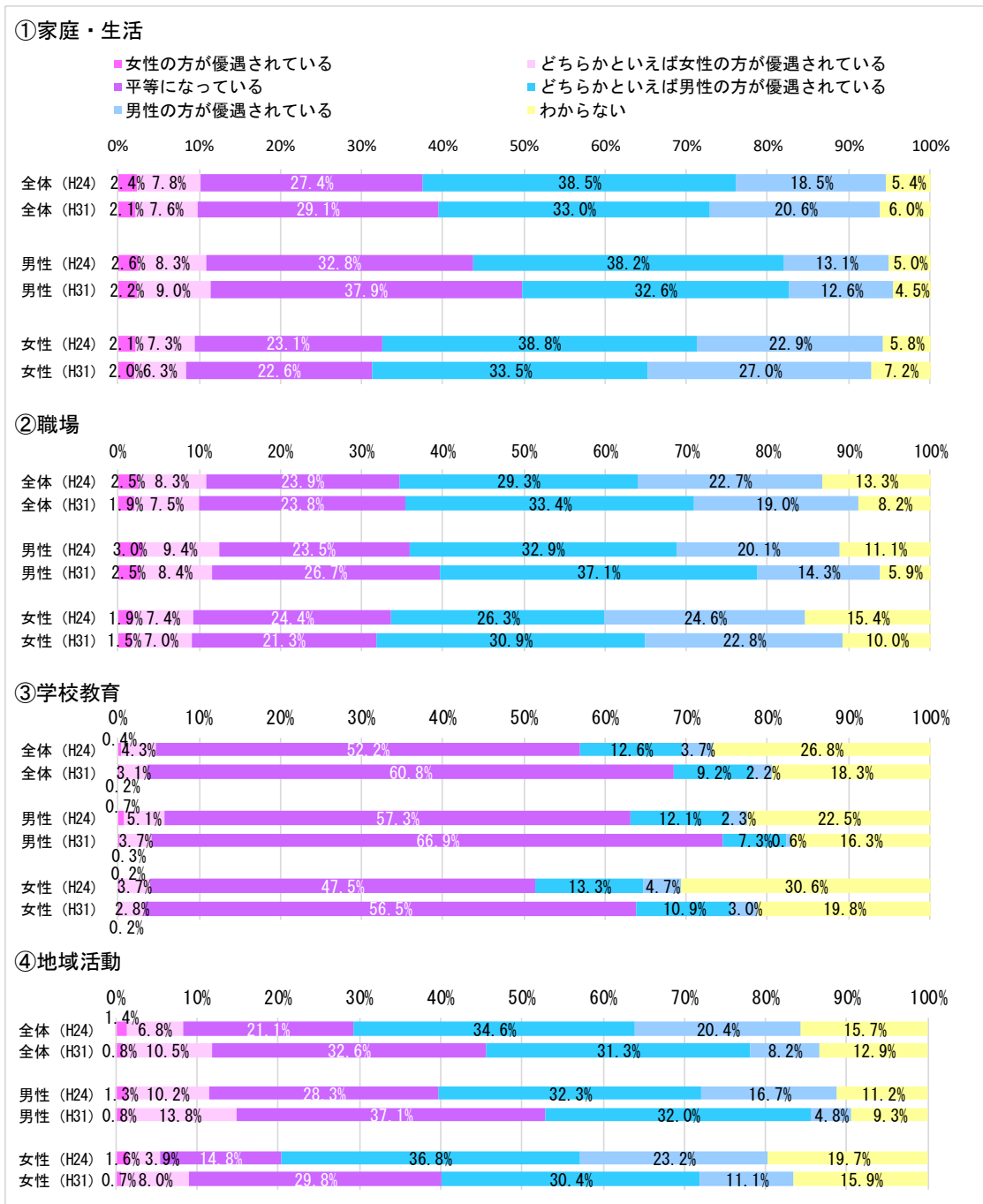
■性別で前回（平成 24 年度）との傾向

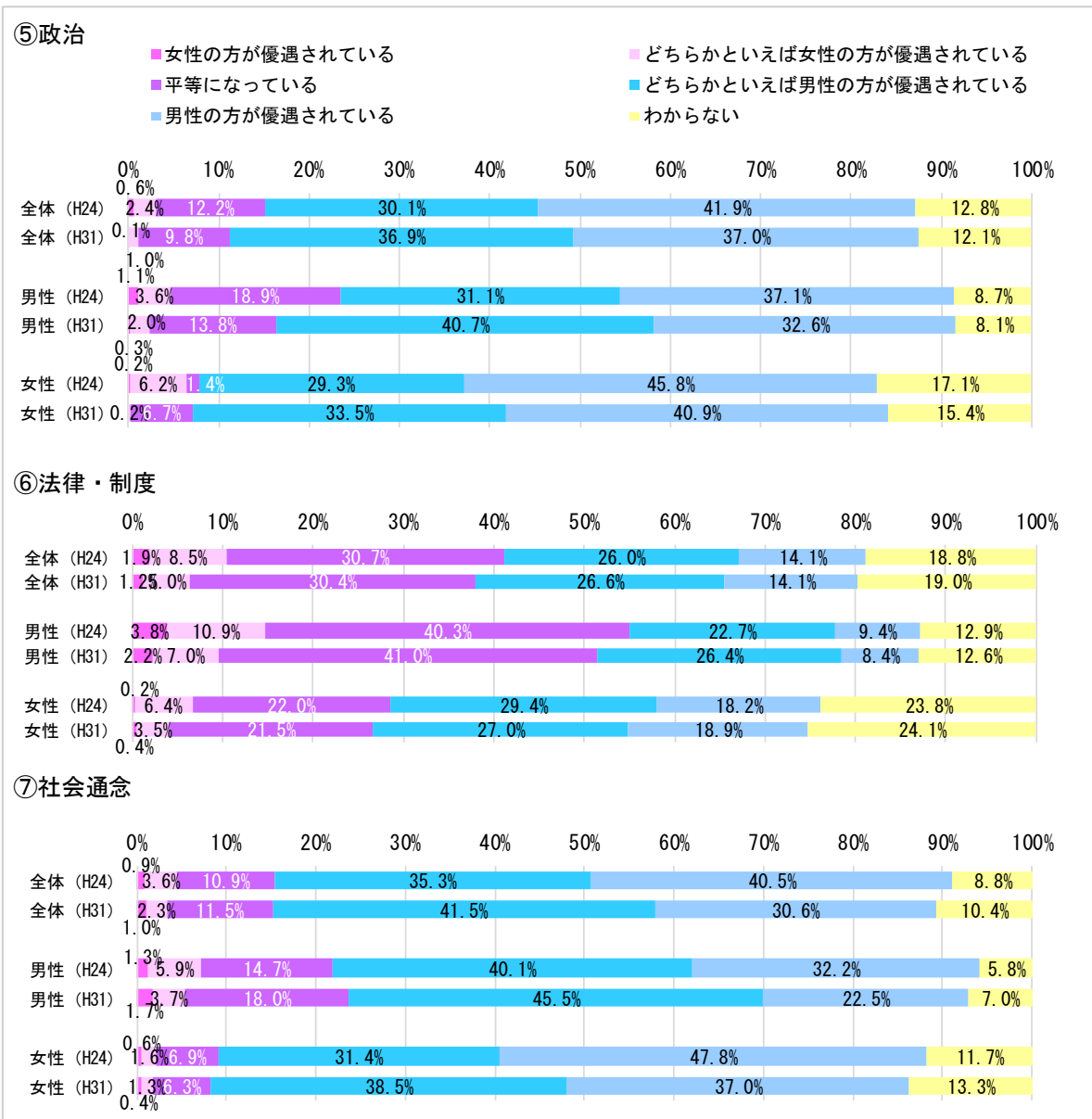
前回の調査で「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女ともに「③学校教育」で、男性は 57.3%、女性は 47.5%となっている。次いで、男性は「⑥法律・制度」で 40.3%、女性は「②職場」で 24.4%となっている。

今回の調査で「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女共に「③学校教育」で、男性は 66.9%、女性は 56.5%となっている。次いで、男性は「⑥法律・制度」で 41.0%、女性は「④地域活動」29.8%となっており、今回の女性の回答は異なる結果となった。

前回の調査で「⑧社会全体」の項目は設けていなかったため、グラフ一覧からは除いている。

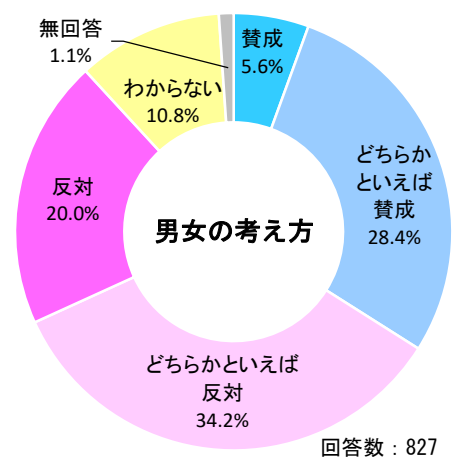
※「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の合計





問2 「男（夫）は仕事」、「女（妻）は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

最も高い割合は「どちらかといえば反対」が34.2%、次いで「どちらかといえば賛成」28.4%となっている。「どちらかといえば」を含んでの回答で最も多いのは「反対」54.2%、「賛成」34.0%となっており、「反対」と考えている人の人が多い。



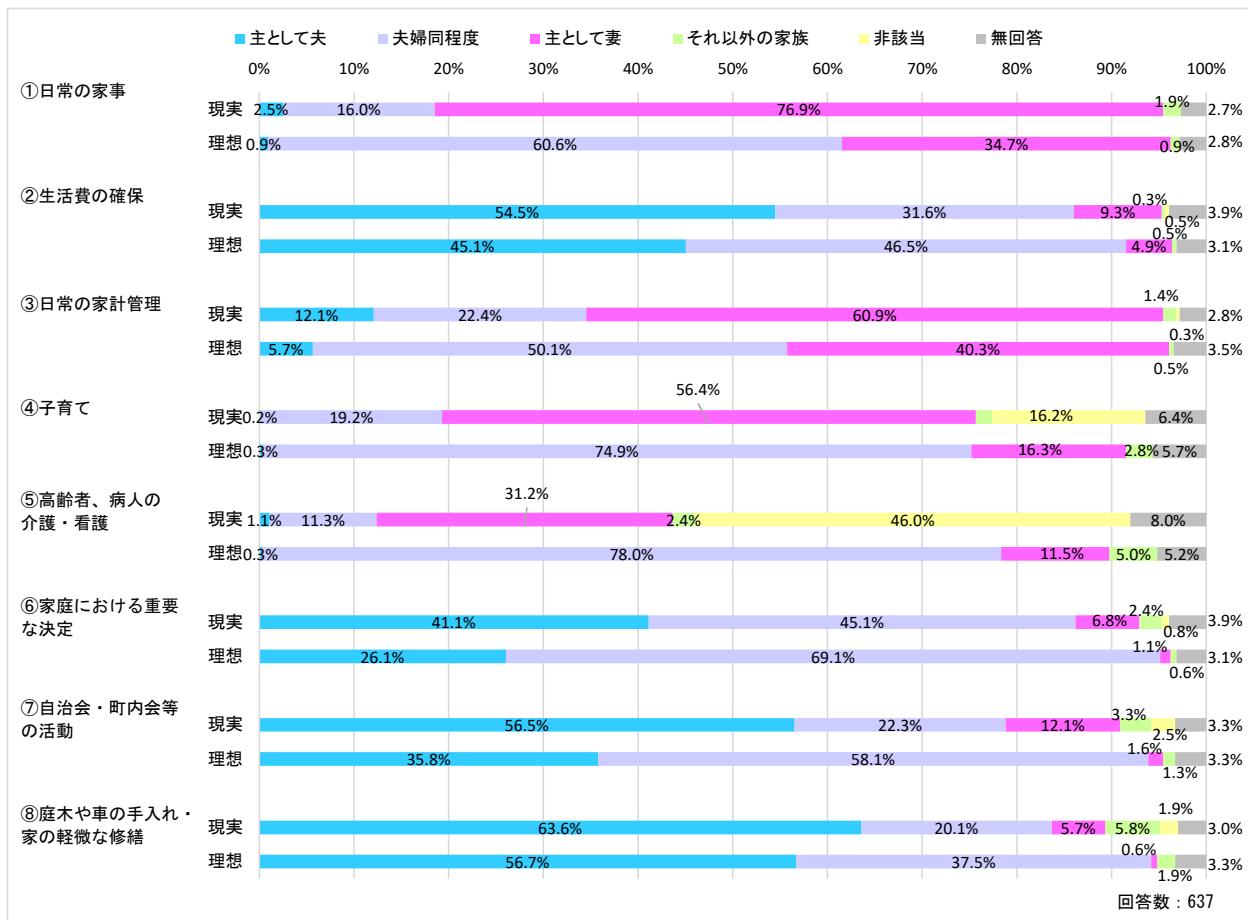
Ⅱ. 仕事と家庭生活・地域活動の両立について

問3・4 あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか。また誰が行うのが望ましいと思いますか。

■現実と理想との比較

現実の役割分担について、「①日常の家事」「③日常の家計管理」「④子育て」は「主として妻」の割合が高く、特に日常の家事は76.9%と高い割合を占めている。「⑦自治会・町内会等の活動」、「⑧庭木や車の手入れ・家の軽微な修繕」といった臨時の家事は「主として夫」の割合が高くなっている。

理想の役割分担について、「①日常の家事」「④子育て」「⑤高齢者、病人の介護・看護」「⑥家庭における重要な決定」は「夫婦同程度」の割合が高くなっている。

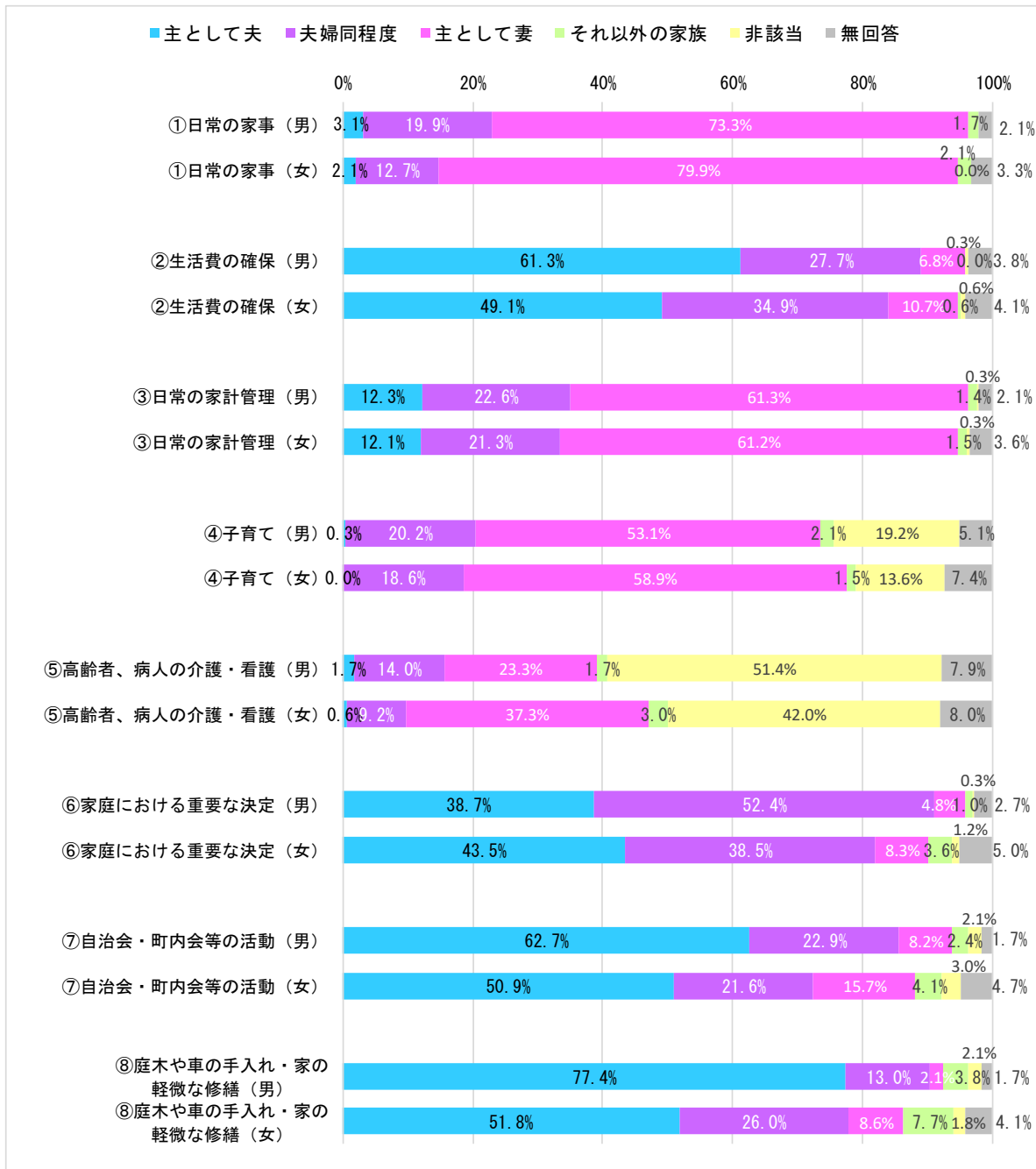


■現実の分担における性別の傾向

「夫婦同程度」の割合が最も高いのは、男女ともに「⑥家庭における重要な決定」となっており、男性は52.4%、女性は38.5%となっている。次いで、男女ともに「生活費の確保」で、男性は27.7%、女性は34.9%となっている。

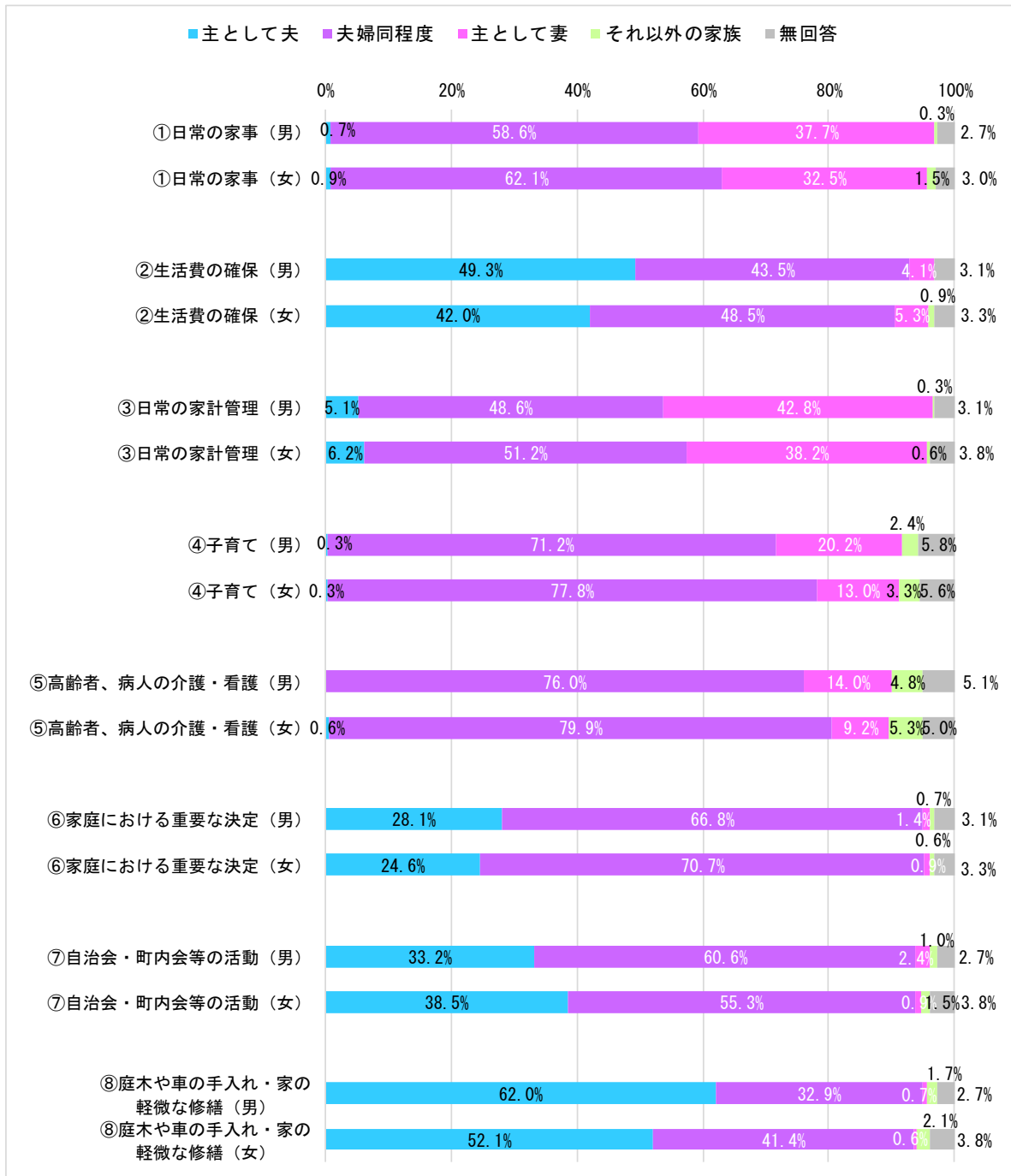
一方で、男女ともに「①日常の家事」「③日常の家計管理」「④子育て」については「主として妻」の割合が最も高くなっている。

男女ともに「非該当」の割合が最も多いのは、「⑤高齢者、病人の介護・看護」となっており、男性が51.4%、女性は42.0%となっている。



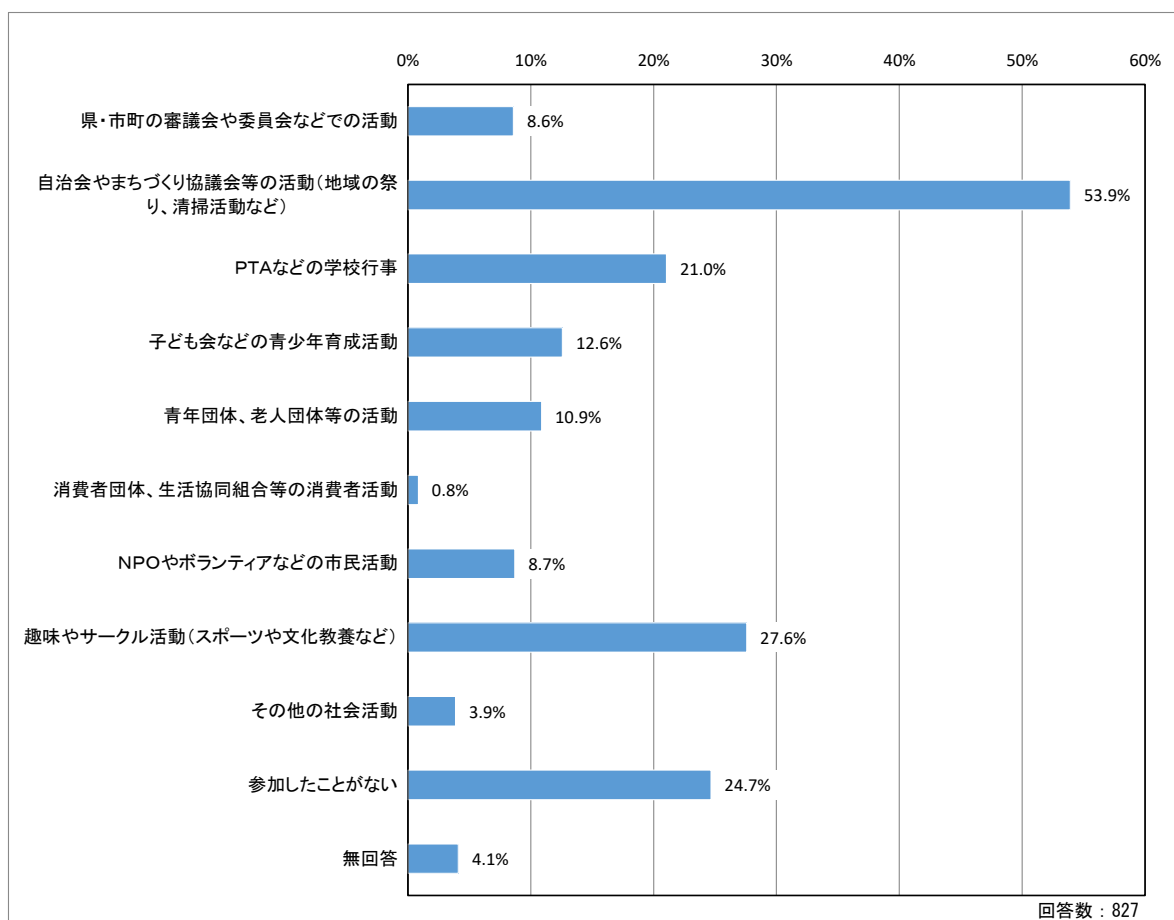
■理想の分担における性別の傾向

「夫婦同程度」の割合が最も高いのは、男女共に「⑤高齢者、病人の介護・看護」で男性は76.0%、女性は79.9%、次いで「④子育て」で男性は71.2%、女性は77.8%となっている。



問5 あなたは、この3年間次のような活動に参加したことがありますか。

参加が多い活動は、「自治会やまちづくり協議会等の活動（地域の祭り、清掃活動など）」で 53.9%、次いで「趣味やサークル活動（スポーツや文化教養など）」27.6%、「参加したことがない」24.7%となっている。過去3年間で地域活動への参加がないのは全体の約4分の1に上る。

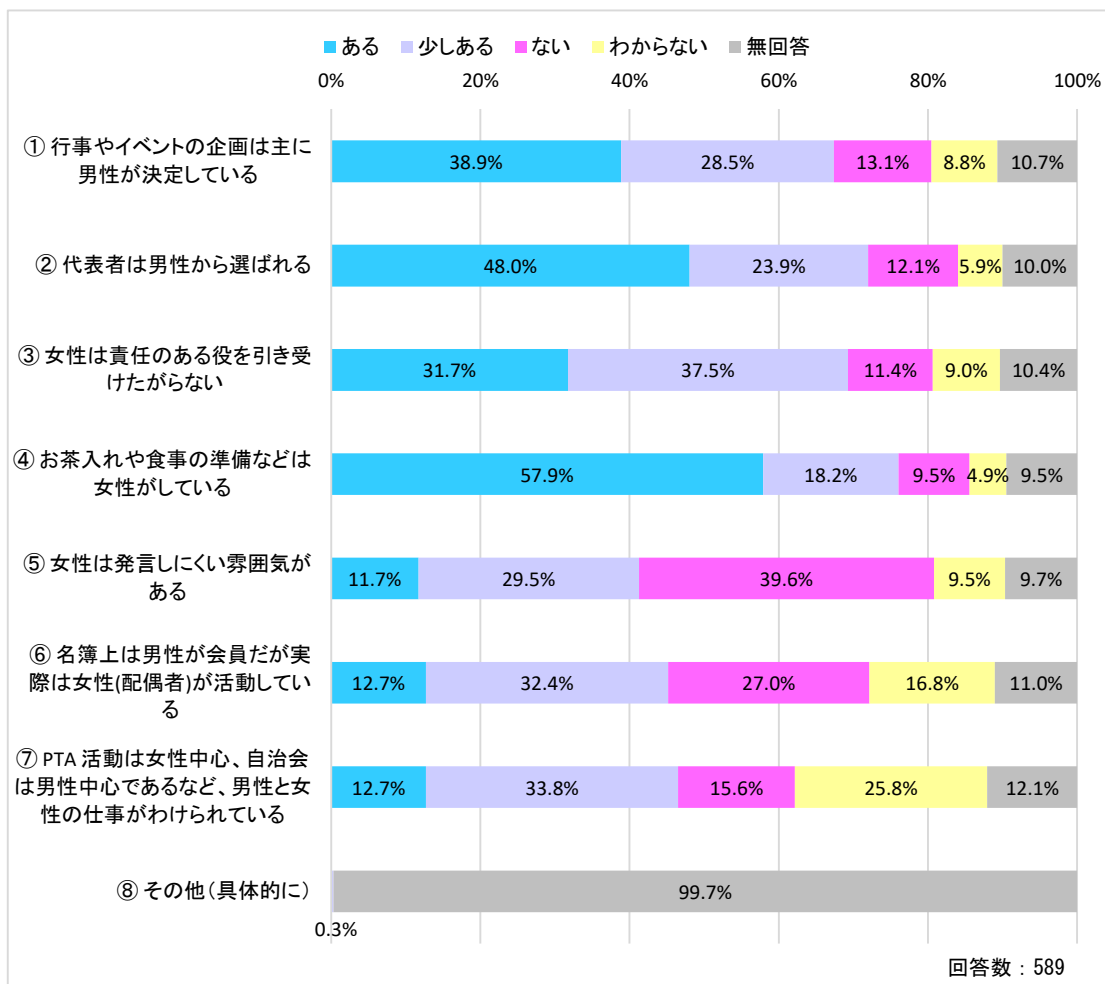


年代別で見ると、50歳代以上では「自治会やまちづくり協議会等の活動への参加」、30歳代、40歳代では「PTAなどの学校行事の参加」の割合が最も高くなっている。20歳代では「参加したことがない」の割合が約6割となっている。

この3年間に参加したことがある活動	県・市町の審議会や委員会などでの活動	自治会やまちづくり協議会等の活動(地域の祭り、清掃活動など)	PTAなどの学校行事	子ども会などの青少年育成活動	青年団体、老人団体等の活動	消費者団体、生活協同組合等の消費者活動
20歳代	0.0%	18.5%	3.7%	1.9%	3.7%	1.9%
30歳代	3.8%	34.6%	35.9%	17.9%	3.8%	0.0%
40歳代	3.9%	57.8%	58.4%	27.3%	4.5%	1.3%
50歳代	8.0%	60.9%	16.7%	11.5%	8.6%	0.6%
60歳代	14.5%	63.1%	7.3%	7.3%	10.6%	0.6%
70歳代以上	11.5%	53.8%	4.9%	6.0%	23.6%	0.5%
この3年間に参加したことがある活動	NPOやボランティアなどの市民活動	趣味やサークル活動(スポーツや文化教養など)	その他の社会活動	参加したことがない	無回答	
20歳代	9.3%	18.5%	0.0%	59.3%	3.7%	
30歳代	1.3%	20.5%	1.3%	33.3%	6.4%	
40歳代	10.4%	26.0%	1.3%	16.9%	2.6%	
50歳代	4.0%	19.0%	2.9%	25.3%	2.3%	
60歳代	11.2%	36.9%	6.7%	19.0%	3.4%	
70歳代以上	12.6%	33.0%	6.6%	22.0%	7.1%	

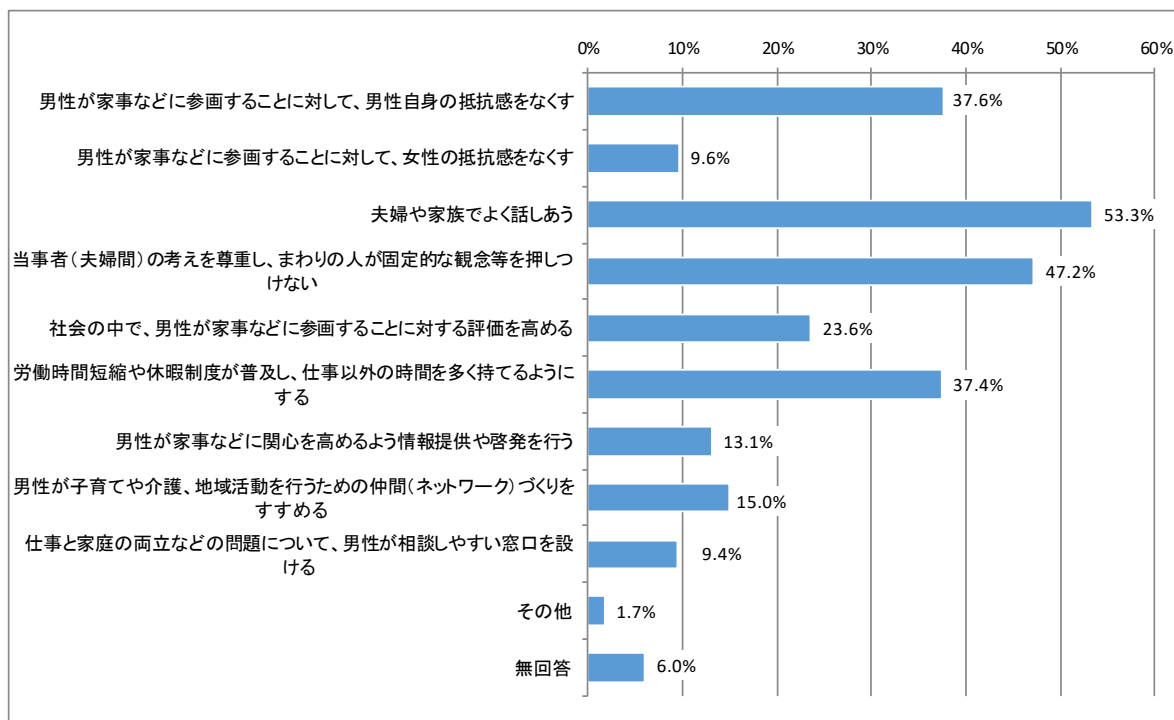
問6 あなたが参加している（したことがある）活動では、次のようなことがありましたか。

参加している（したことがある）活動で「ある」（「ある」と「すこしある」の合計）の割合が最も高いのは「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」で76.1%、次いで「代表者は男性から選ばれる」が71.9%となっている。



問7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参画していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

重要度の割合が最も高いのは「夫婦や家族でよく話し合う」で 53.3%、次いで、「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等押し付けない」が 47.2%、「男性が家事などに参画することに対して、男性自身の抵抗感をなくす」が 37.6%となっている。

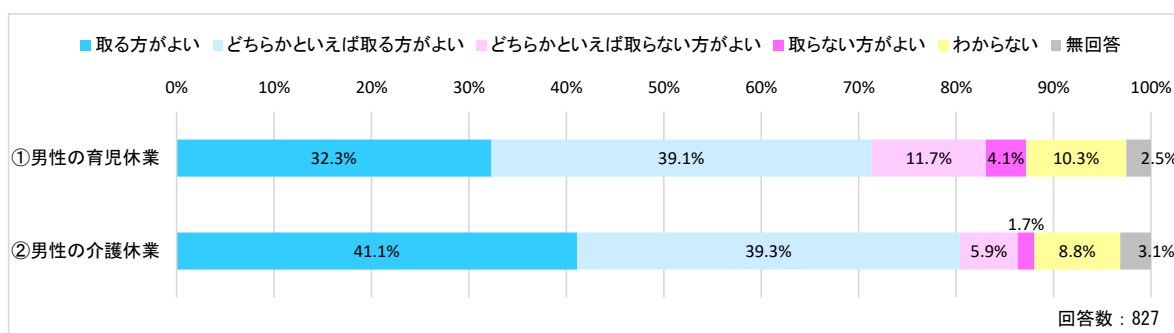


問8 あなたは、男性が「育児休業・介護休業制度」を利用することについてどう考えますか。

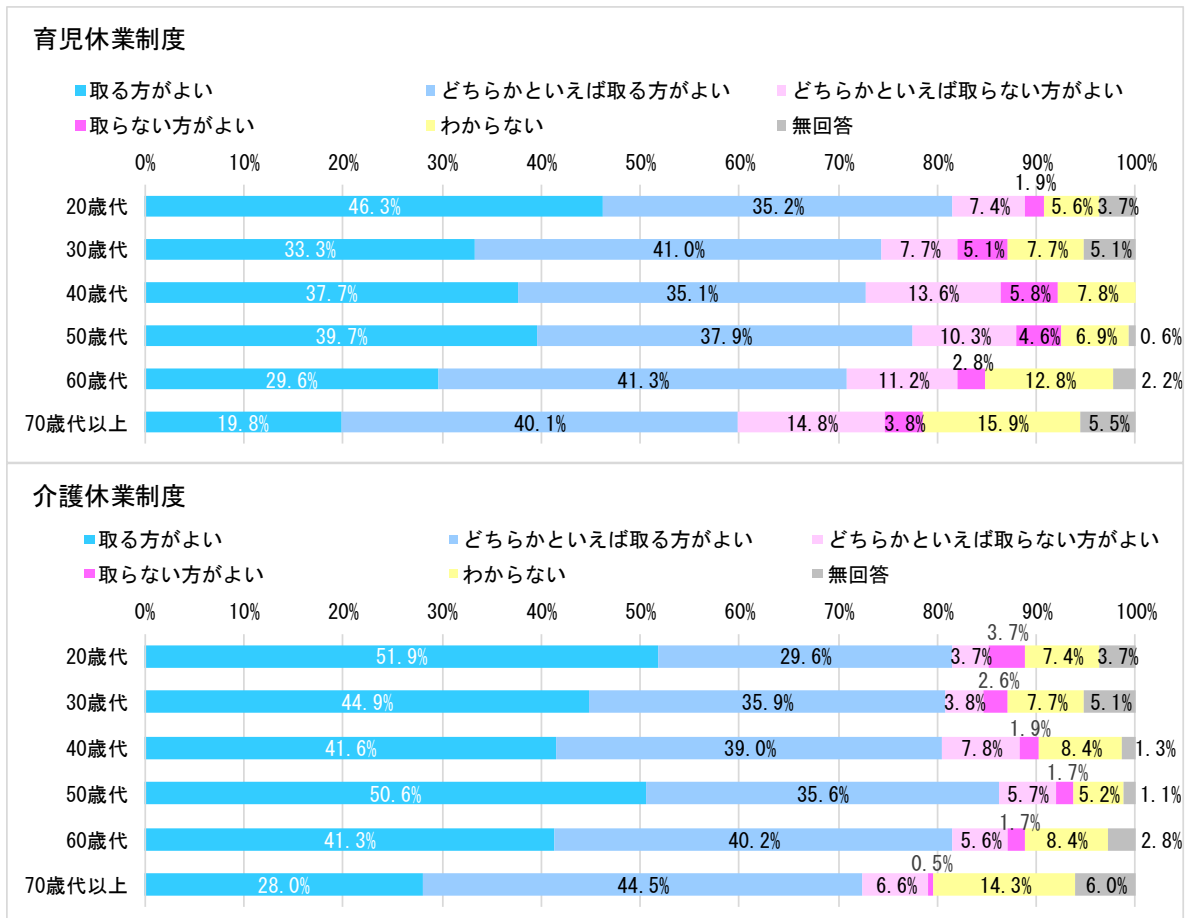
育児休業は「どちらかといえば取る方がよい」が 39.1%で最も多く、介護休業は「取る方がよい」が 41.1%を占めている。

育児休業は、「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせると 71.4%、「どちらかといえば取らない方がよい」「取らない方がよい」を合わせると 15.8%となっている。介護休業は、「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせると 80.4%、「どちらかといえば取らない方がよい」「取らない方がよい」を合わせると 7.6%となっている。

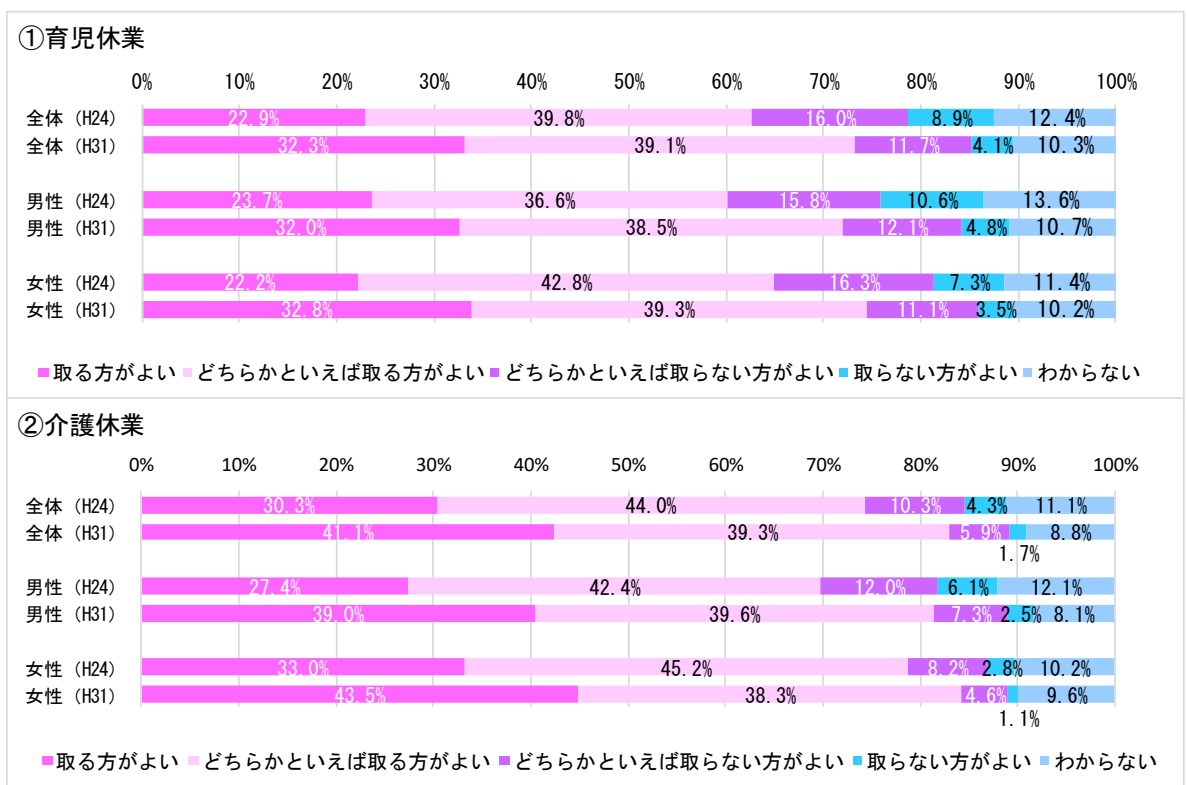
育児と介護を比較すると、介護のほうが男性も休業を「取る方がよい」と考えられる傾向にある。



年代別にみると、育児休業と介護休業ともに「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせると、割合が最も高いのは、育児休業では20歳代、介護休業では50歳代となっている。



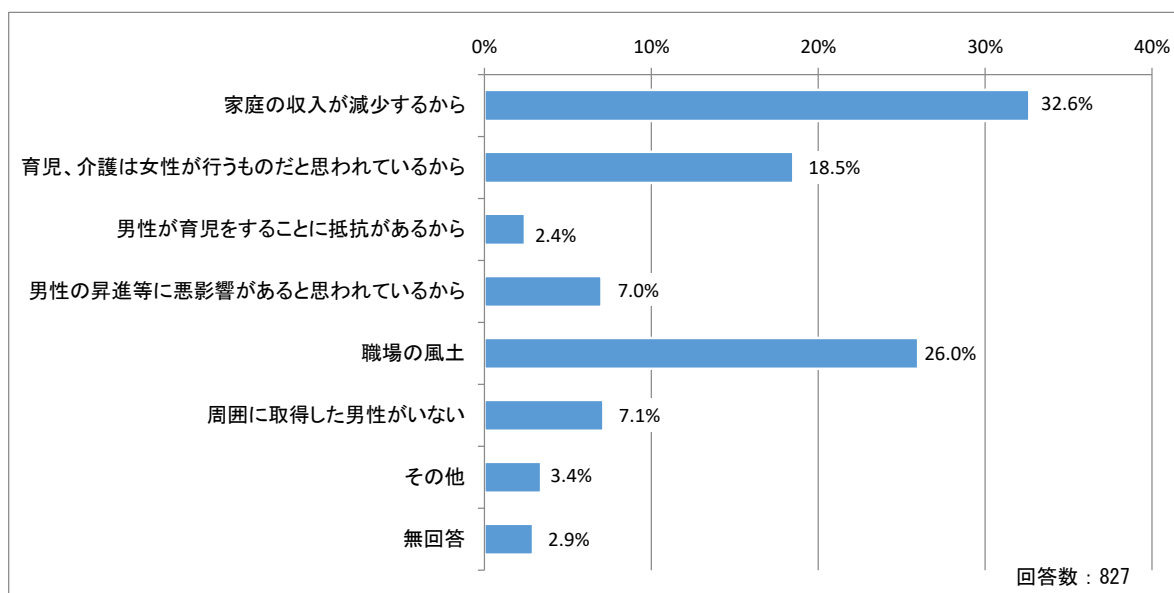
また、前回と比較して、全体、男女別ともに「取る方がよい」の割合が増加傾向にある。



問9 男性の「育児休業・介護休業制度」取得が進まない最も大きな理由は何だと考えますか。

割合が最も高いは「家庭の収入が減少するから」で32.6%、次いで「職場の風土」が26.0%、「育児、介護は女性が行うものだと思われるから」が18.5%となっている。

「男性が育児をすることに抵抗があるから」は2.4%と低くなっている。

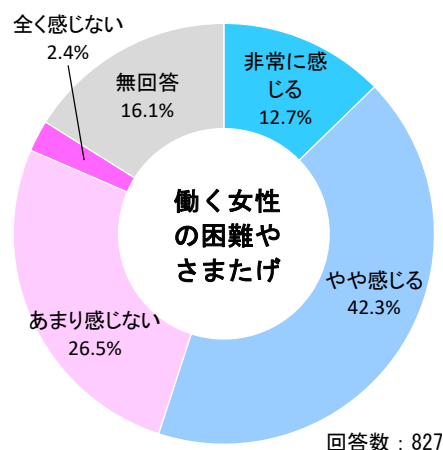


Ⅲ. 女性の仕事・活躍推進について

問10(1) 今の社会全体からみて、女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることがあると感じますか。

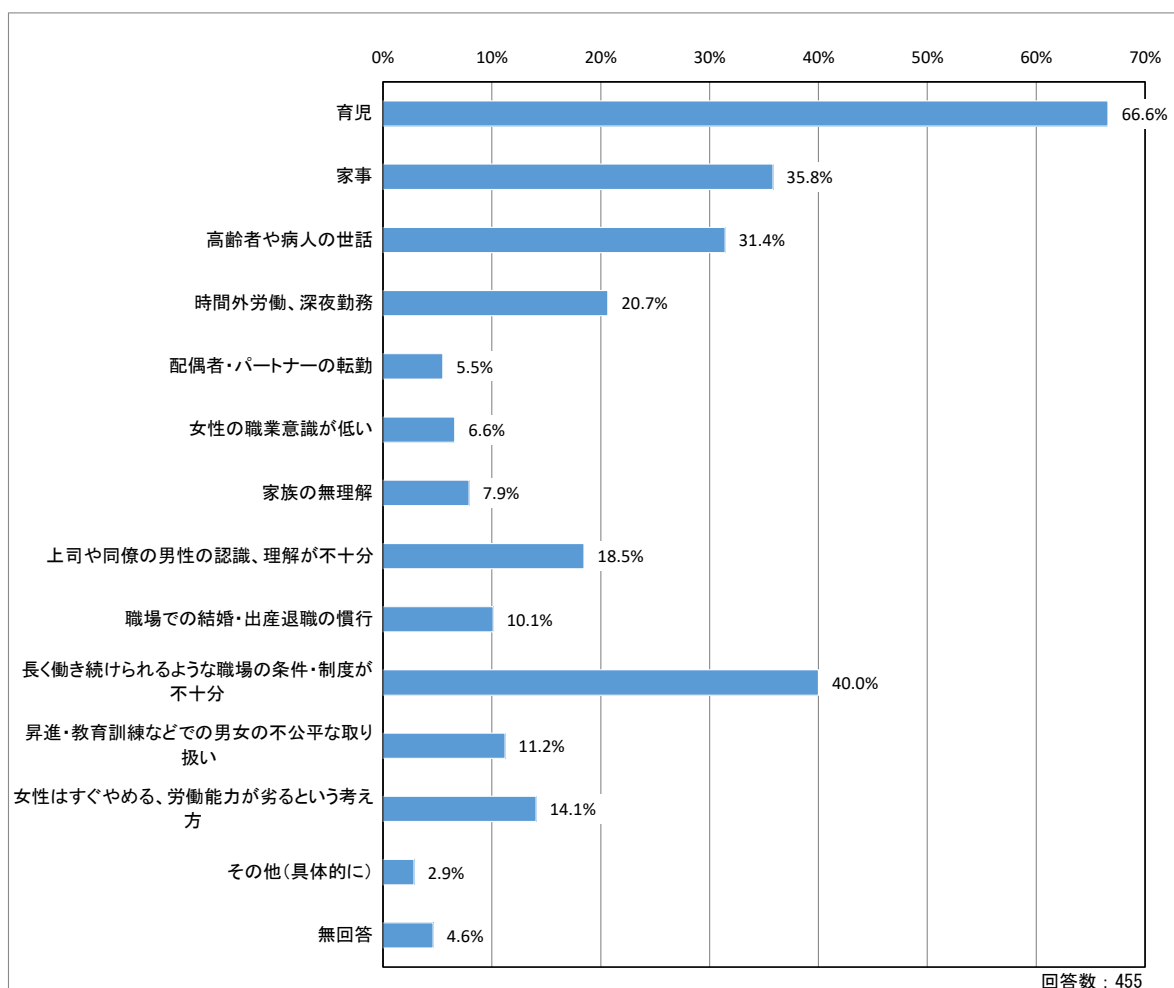
割合が最も高いのは「やや感じる」で42.3%、次いで「あまり感じない」が26.5%となっている。「全く感じない」は2.4%と割合が低くなっている。

「非常に感じる」「やや感じる」を合わせると55%に上ることから、女性が働き続けることに対して困難や妨げになっていることがあると感じている人が多いことがうかがえる。



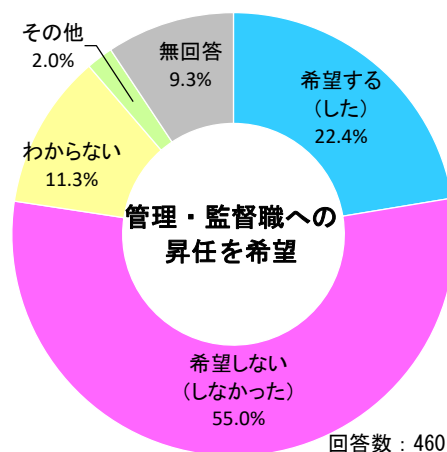
問 10(2) 女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることは、どのようなことだと思いますか。

割合が最も高いのは、「育児」で 66.6%、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」が 40.0%、「家事」が 35.8%となっている。



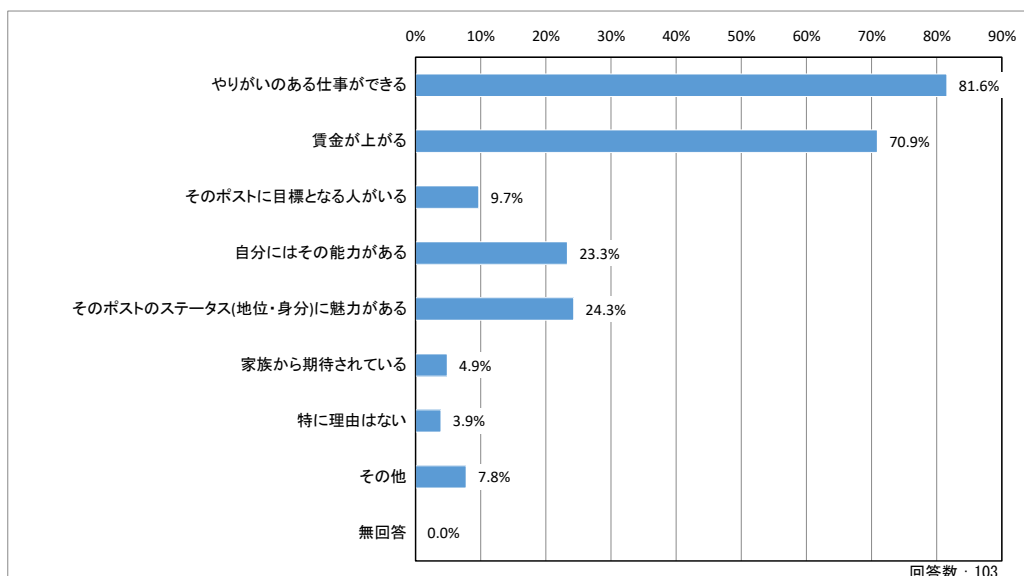
問 11(1) 女性が活躍する指標の一つに、職場環境における女性の管理職登用がありますが、あなたは管理・監督職への昇任を希望しますか。なお、現在、管理・監督職の方は、昇任を希望しましたか。

割合が最も高いのは「希望しない(しなかった)」で 55.0%となっており、約半数が管理・監督職への昇任を希望していない。続いて「希望する(した)」は 22.4%、「わからない」11.3%となっている。



問 11(2) 希望する(した)理由を教えてください。

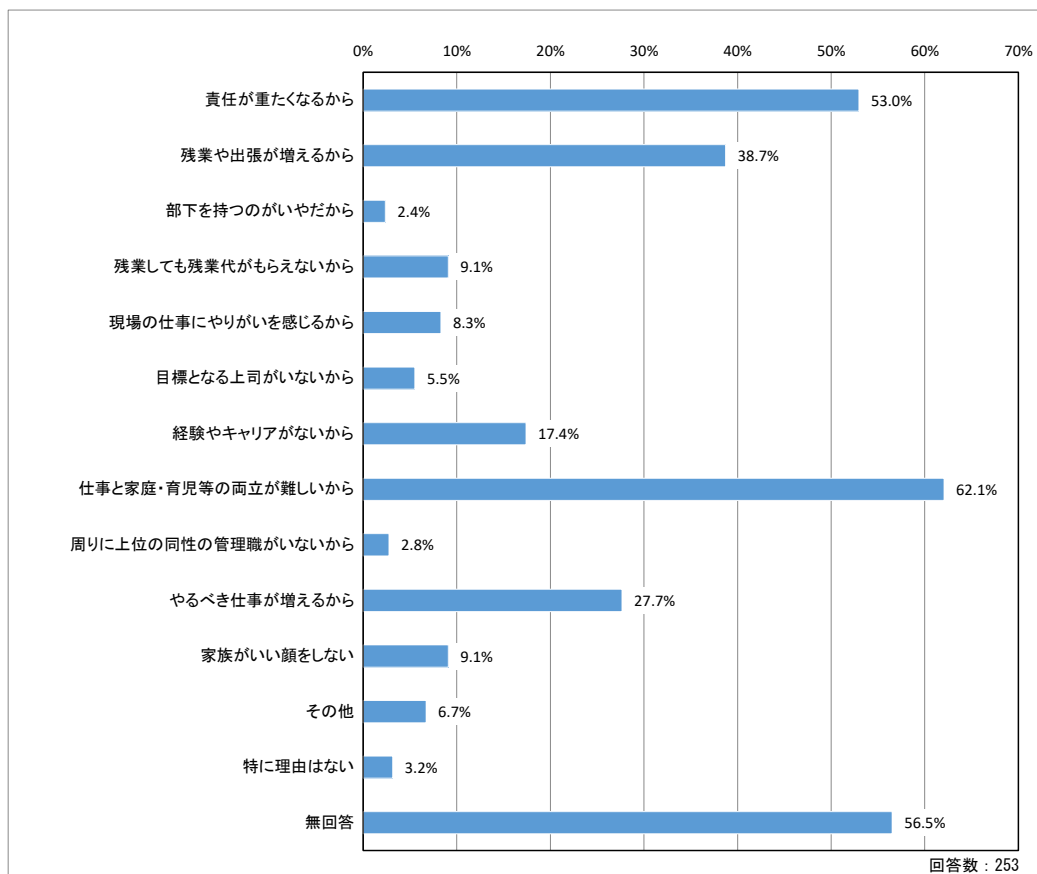
希望する(した)理由で最も多い回答は、「やりがいのある仕事ができる」で 81.6%、次いで「賃金上がる」が 70.9%、「そのポストのステータス(地位・身分)に魅力がある」が 24.3%となっている。



問 11(3) 希望しない(しなかった)理由を教えてください。

希望しない(しなかった)理由で割合が最も高いのは「仕事と家庭・育児等の両立が難しいから」62.1%、次いで「責任が重たくなるから」53.0%、「残業や出張が増えるから」38.7%となっている。

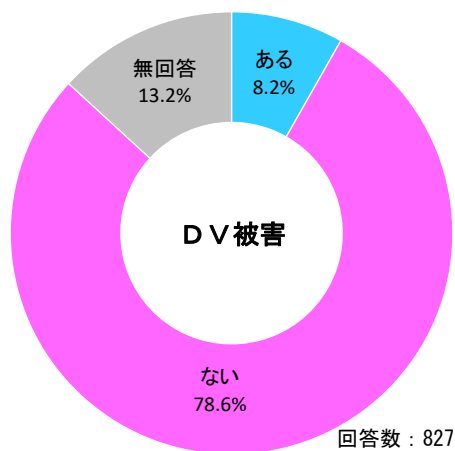
また、「周りに上位の同性の管理職がないから」は 2.8%、「部下を持つのがいやだから」は 2.4%と低い割合になっている。



IV. 性と人権について

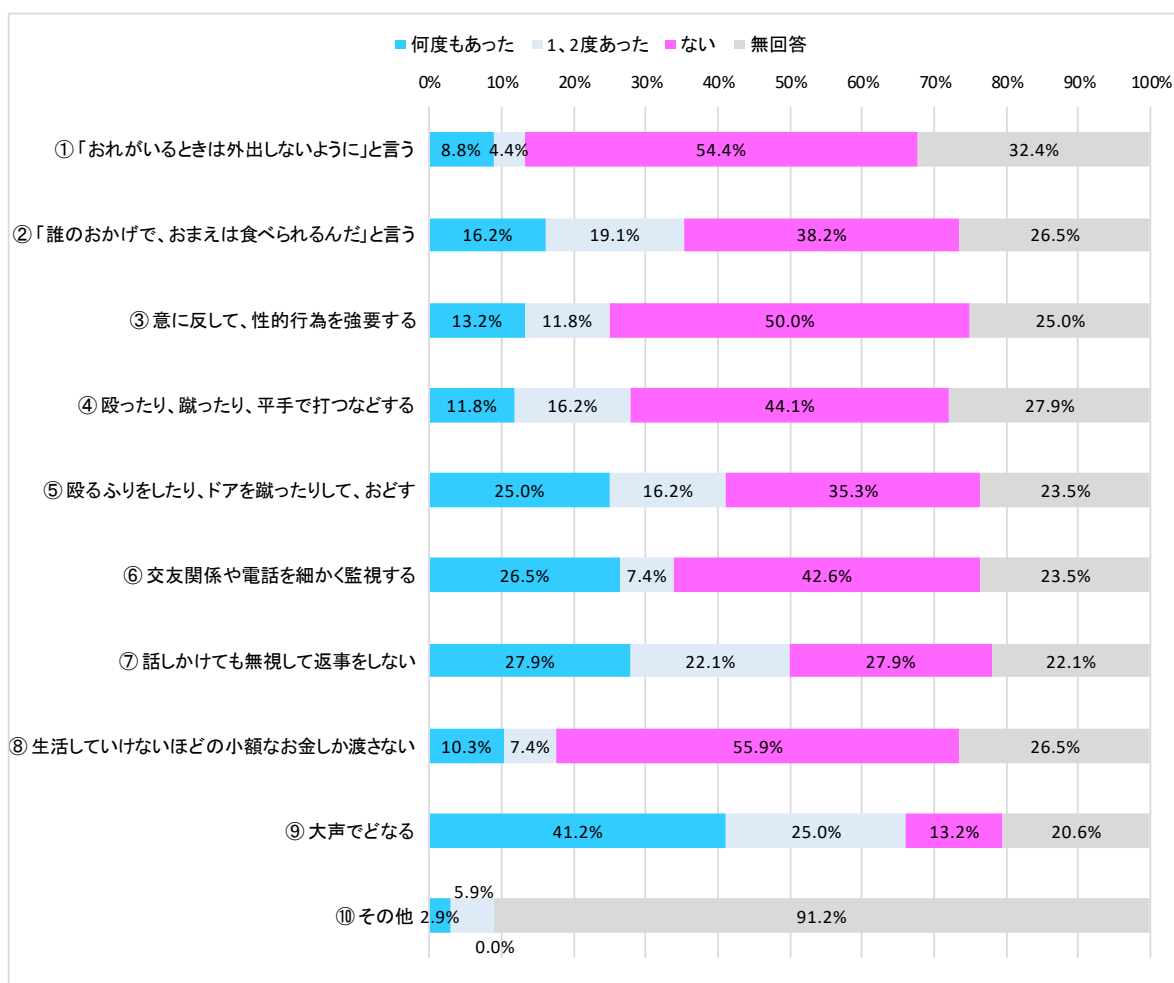
問 12(1) あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)被害にあわれたことがありますか。

最も多い回答は「ない」の78.6%、次いで「ある」が8.2%となっている。



問 12(2) あなたが受けたDVはどのような内容ですか。

受けたDV（「1、2度あった」と「何度もあった」をあわせて）で最も多い回答は「大声でどなる」で66.2%、次いで「話しかけても無視して返事をしない」が50.0%、「殴るふりをしたり、ドアを蹴ったりして、おどす」が41.2%となっている。

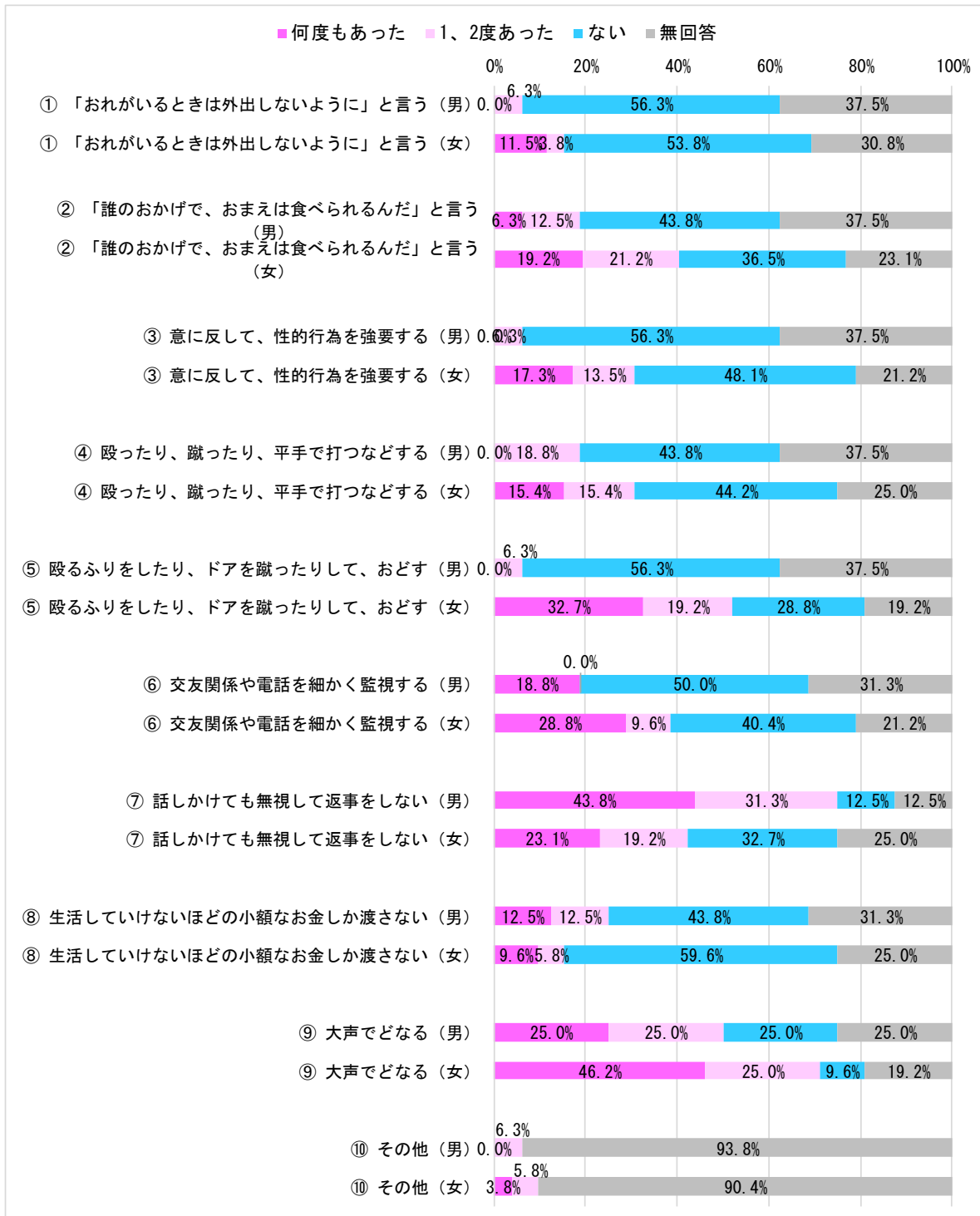


■性別の比較

経験した*割合が最も高いものは、男性は「話しかけても無視して返事をしない」で75.1%、女性は「大声でどなる」で71.2%となっている。

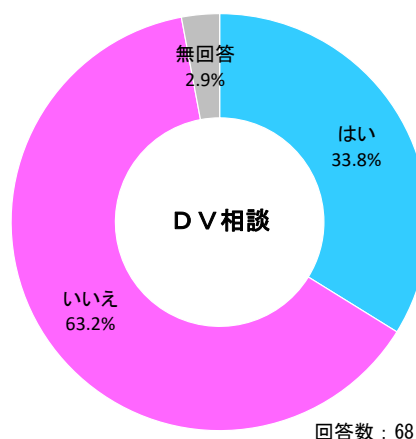
男性の18.8%、女性の30.8%が「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」の身体的な暴力を受けた経験があると回答している。

※何度もあった、1、2度あった、を合わせた数



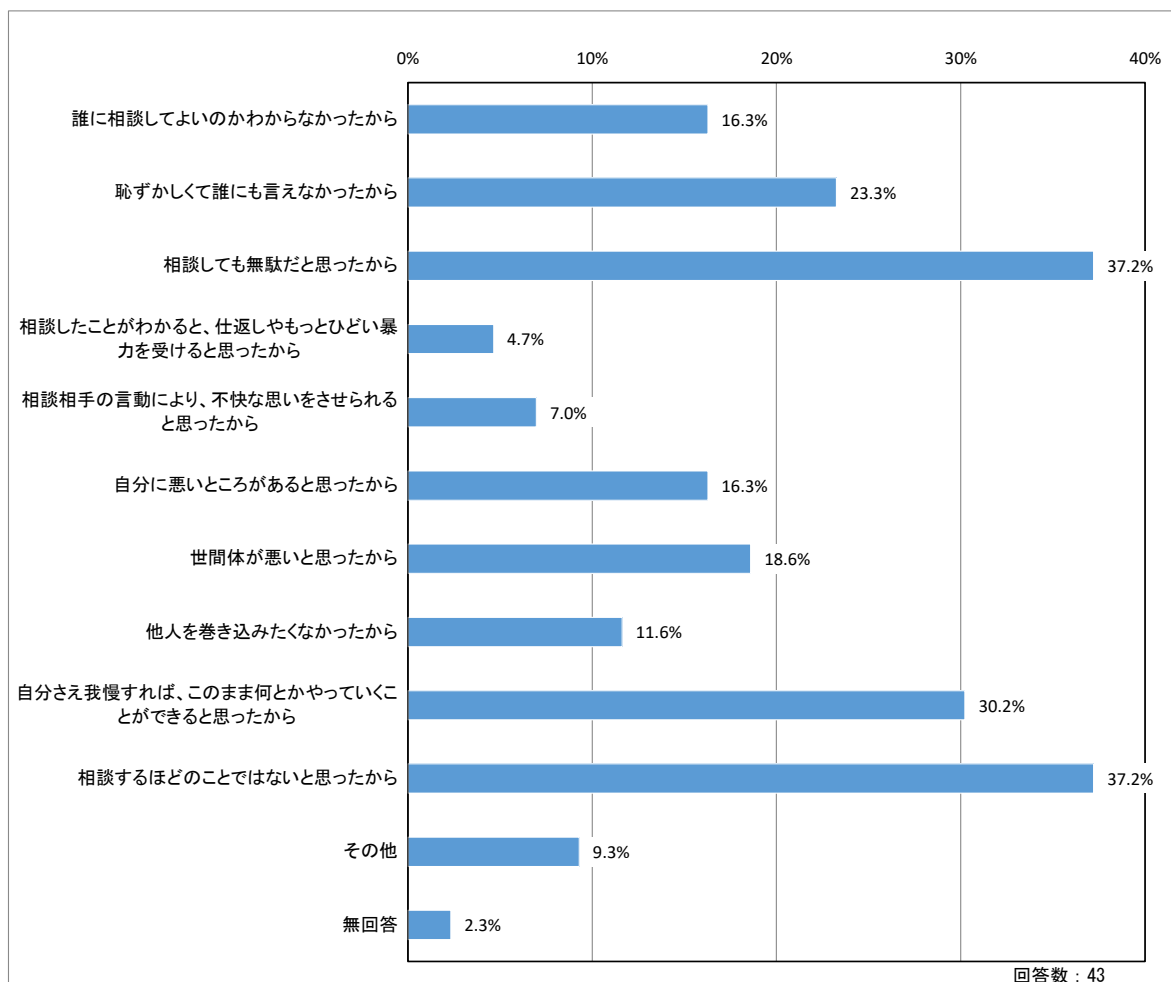
問 12(3) あなたがDVを受けたとき、どこかに相談しましたか。

被害をうけた人のうち、相談しなかったケースが多く、63.2%となっている。どこかに相談したと回答したのは、33.8%となっている



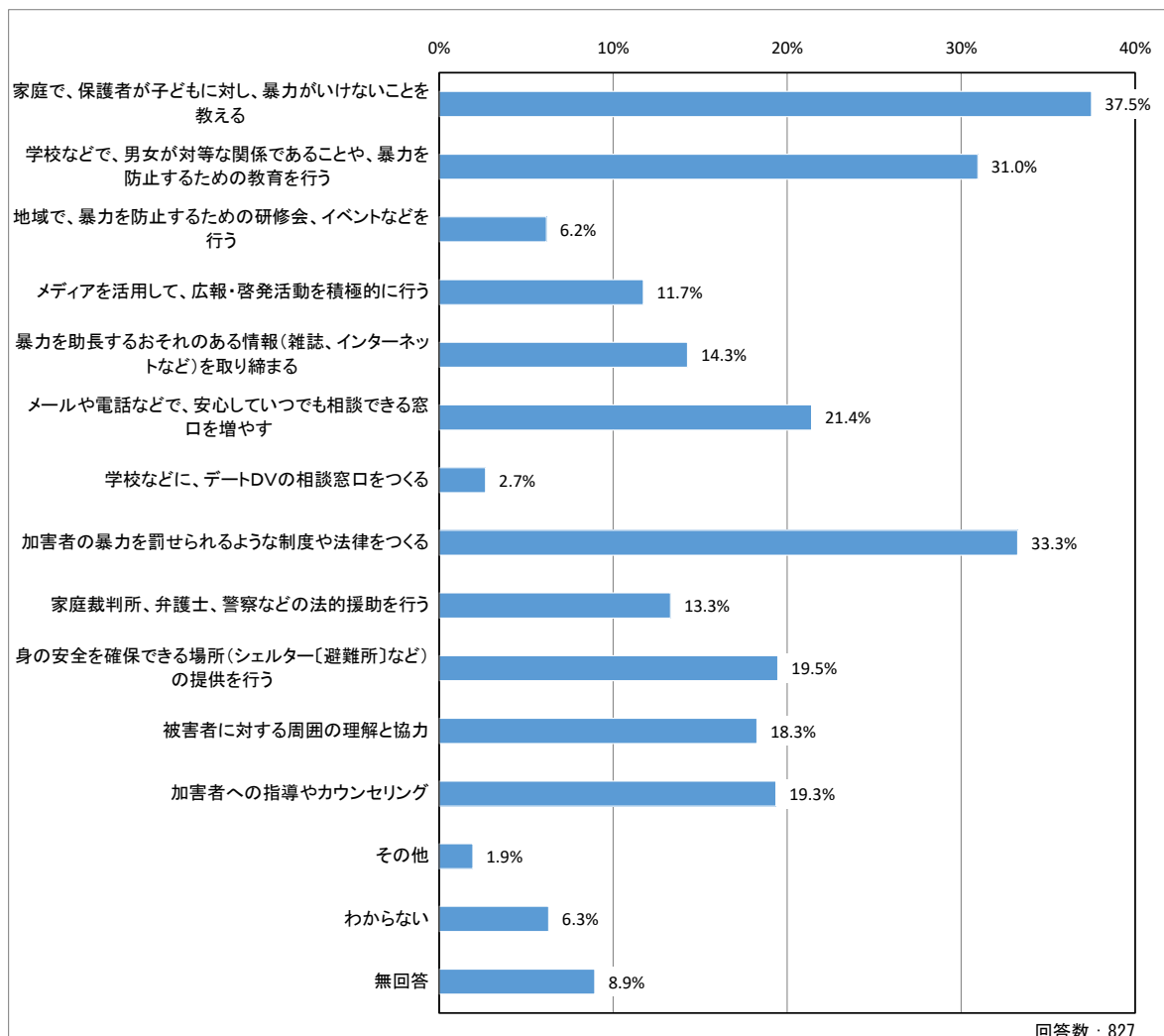
問 12(4) 相談しなかった理由は何ですか。

相談しなかった理由として最も多かったのは「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことでもないと思ったから」で37.2%、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が30.2%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が23.3%と続いている。



問 13 あなたは、夫婦または恋人における暴力を防止するためには、どうしたらよいと思いますか。

割合が最も高いのは、「家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える」で 37.5%、次いで、「加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる」が 33.3%、「学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う」が 31.0%となっている。

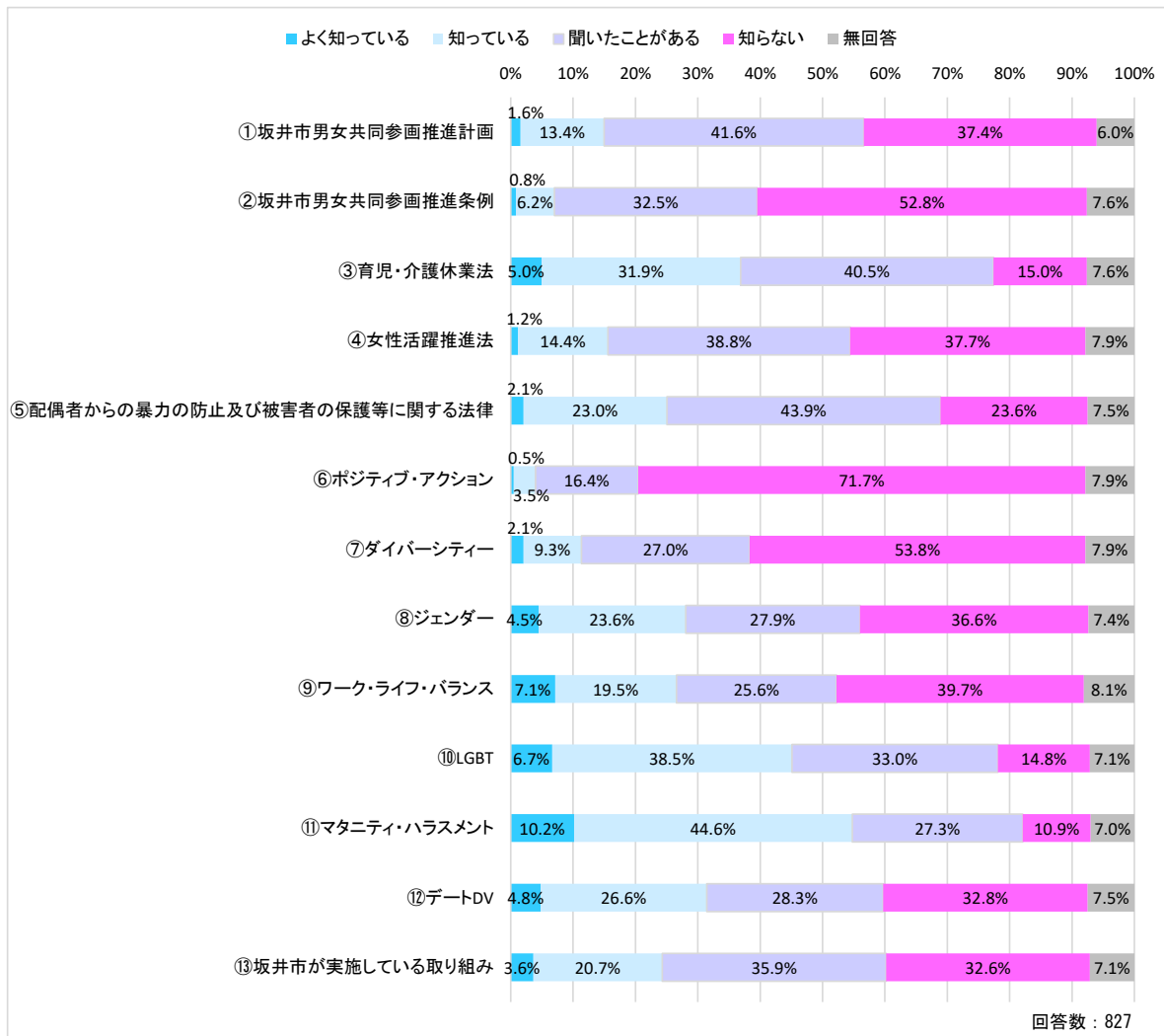


V. 男女共同参画社会の実現について

問 14 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。

「よく知っている」、「知っている」を合わせた回答で割合が最も高いのは、「マタニティ・ハラスメント」で54.8%、次いで「LGBT」が45.2%、「育児・介護休業法」36.9%となっている。

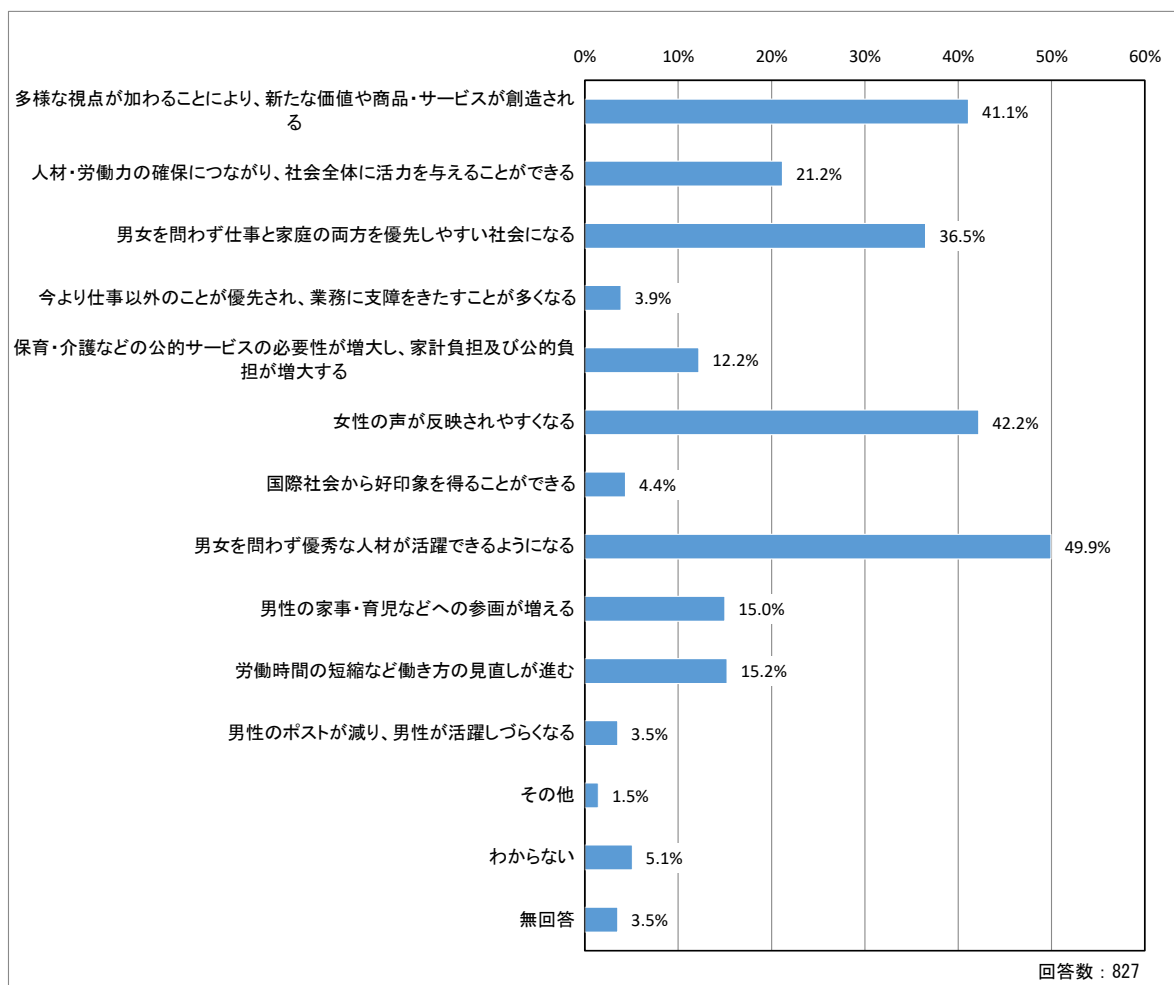
「知らない」という回答で最も高いのは「ポジティブ・アクション」で71.7%、次いで「ダイバーシティ」が53.8%、「坂井市男女共同参画推進条例」が52.8%となっている。



問 15 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。

割合が最も高いのは「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」で 49.9%、次いで「女性の声が反映されやすくなる」が 42.2%、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が 41.1%となっている。

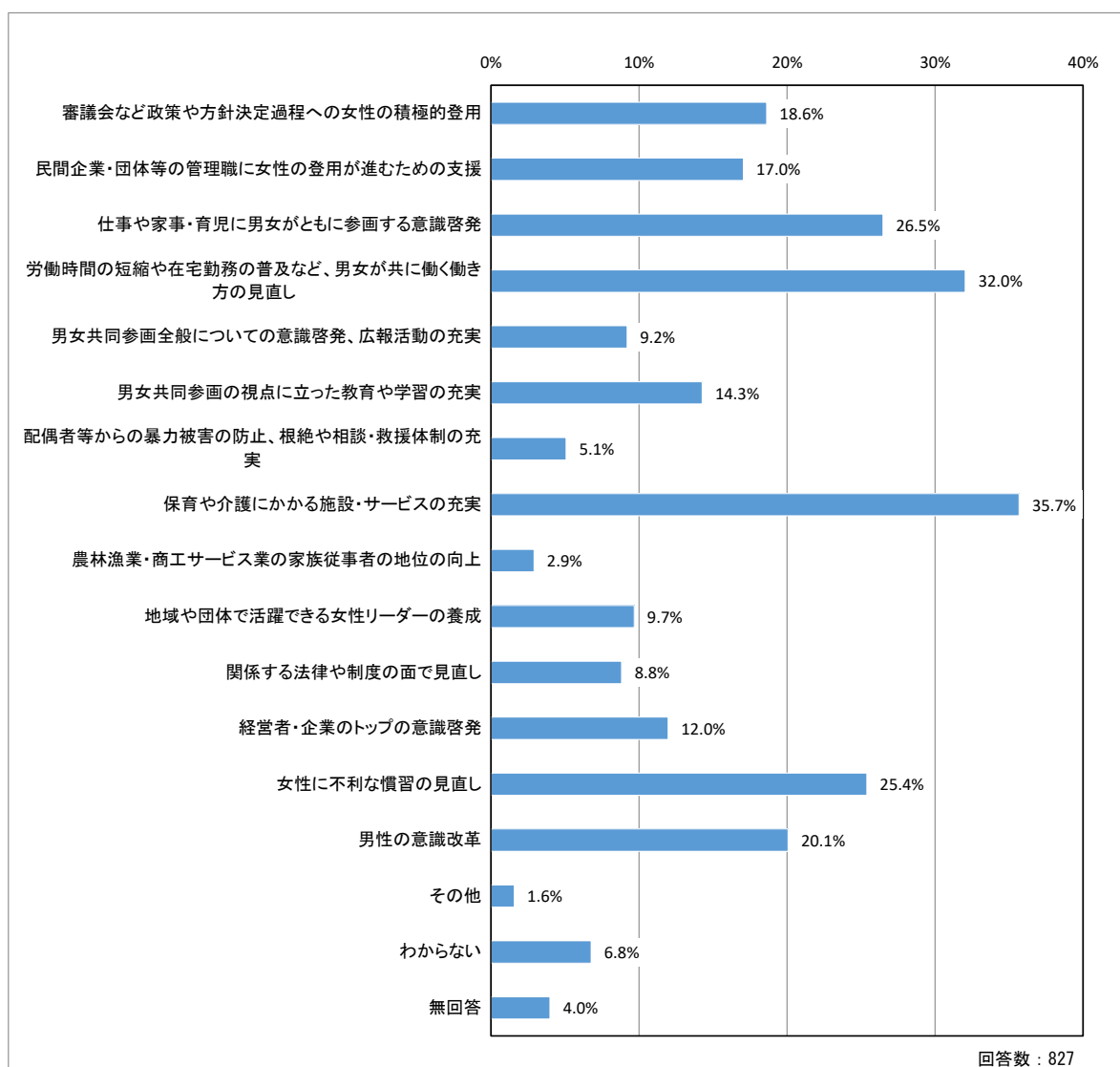
一方で、割合が低いのは、「国際社会から好印象を得ることができる」で 4.4%、「今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる」が 3.9%、「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」となっている。



問 16 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。

割合が最も高いのは、「保育や介護にかかる施設・サービスの充実」で 35.7%、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女が共に働く働き方の見直し」で 32.0%、「仕事や家事・育児に男女がともに参画する意識啓発」が 26.5%、「女性に不利な慣習の見直し」が 25.4%、「男性の意識改革」が 20.1%となっている。

一方で、「地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成」9.7%、「男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実」9.2%、「関係する法律や制度の面で見直し」8.8%、「配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実」5.1%、「農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上」2.9%となっている。



問 17 男女平等や男女共同参画、女性活躍などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望

(自由記述)

内容	全体	女性	男性	不明
性別役割分担意識の肯定(男女平等に抵抗がある、区別は必要、生物学的差を考慮すべき、男・女らしさは必要)	5	3	2	0
意識啓発の必要性(啓蒙・広報・PR)	5	2	3	0
男女というより人間として尊重すること、多様性を認めること、協力すること、自立することが重要	12	7	5	0
ワークライフバランス(労働時間・結婚・出産・育児)	3	1	2	0
本調査に対する疑問・不満	14	8	6	0
坂井市への要望	9	7	2	0
子どもへの教育の必要性(学校・家庭)	4	3	1	0
情報提供の必要性	4	2	2	0
少子化、結婚	2	0	2	0
女性が優遇されている (女性自身が悪い、甘えている、すでに優遇されている、男性のほうがつらい)	8	2	6	0
男女共同参画は既にある程度達成されている。現状で満足している。	2	1	1	0
男女共同参画は実現が難しい (そんな余裕はない、厳しい点が多い、あきらめている)	7	6	1	0
男女共同参画は重要なことではない (差別などない、他にすることがある、それぞれの考えがある)	4	0	4	0
本調査への期待(応援・感謝等)	5	2	3	0
家庭や地域の変化、意識の変化	10	8	1	1
企業毎に異なる対応、企業への意識づけ、企業努力の必要性	18	11	7	0
雇用の問題	1	1	0	0
自分には関係ない(わからない)	2	1	1	0
意思決定への女性の参画の必要性	7	5	2	0
DV、セクハラ、性犯罪	2	0	2	0
法制度改正の必要性	4	2	2	0
育児サービスの必要性	7	4	3	0
その他	25	9	15	1